

《課題名》

心臓突然死における形態学的診断法の確立

《研究対象者》

2014年4月22日から2029年3月31日までの期間中に、R2014-010「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」(以下「R2014-010」とします)の研究にご協力いただいた方となります。ただし、観察に適さない状態のご遺体及び下記(7)において、ご遺族より試料・情報の利用停止の申し出を受けた方につきましては、対象から外させていただきます。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、R2014-010にご提供いただきました試料・情報を活用させていただいて実施する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方のご遺族におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：心臓突然死における形態学的診断法の確立

研究期間： 2019年7月17日～2029年6月30日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

突然死は死に至る過程が極めて短時間であるため、病理学的所見が乏しく、またバイオマーカーの上昇も認めず、死因決定に苦慮することが多くあります。

法医学分野における死因決定で病理学的所見は重要であり、免疫組織化学染色を実施することで、さらに詳細に検討できます。急性期反応性タンパクであるPTX3や局在に応じた多機能性を有するNardilysinは、近年、急性冠症候群に特異的なマーカーとして注目され、研究が進められています。またCCC9やRBM-3は、早期虚血やコントラクションバンドと関連があるとされています。その他、様々なタンパク、補体等が突然死に関連することが、近年の研究で示唆されています。

以上より、致死的不整脈による突然死例では、刺激伝導系またはその周囲に、何らかの形態変化や前述のバイオマーカーの分布・発現に変化があるのではないかと考えました。

本研究により、健常者、心臓突然死者におけるタンパク発現の差や形態変化の差が確認できれば、死因との関係を深く追求することができると考えます。また、死因決定が困難である超急性期に死亡した突然死症例を解析することで、法医診断への応用の可能性だけでなく、臨床への応用も期待できます。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

日常の法医解剖・鑑定業務の際にルーチンに採取・保存される心臓組織、必要に応じてR2014-010「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」(以下、R2014-010とする)から

提供を受けた心臓組織を用い、死因別に心臓の形態変化、各種バイオマーカーの発現箇所や発現具合を検討します。
研究に利用する情報は、上記の観察結果の他、年齢・性別・既往歴・死因です。

(4) 個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方のご遺族は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人（ご遺族）の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（8）にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2200